

# DX 街づくり・ビジネスデザイン勉強会



2023年12月



GLOCOM



Resilient City  
Research Lab.

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター  
レジリエントシティ研究ラボ

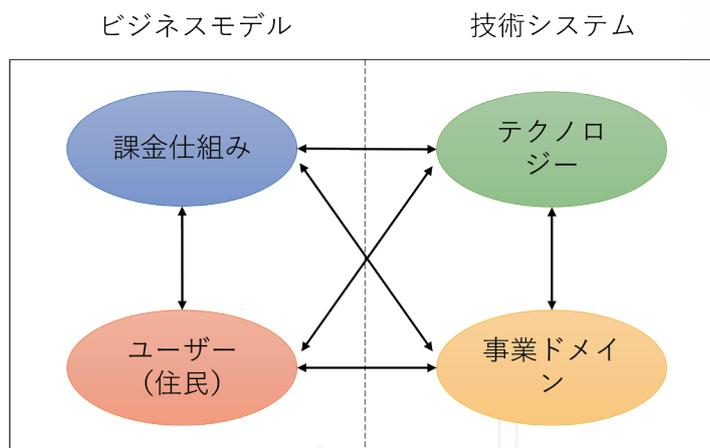
## ◆ 勉強会の目的

本勉強会は、デジタル技術を活用した新しい街づくりビジネスを実践するうえで重要となる短期的視点（ビジネス企画の構築に必要な要素の理解）と、未来志向に基づいた長期的・戦略的視点（住民との関係性維持や持続的なビジネスモデル実践のための知識）を、広く街づくりに参画されている企業の皆さんに獲得いただくため、2021年度に開始いたしました。

実際の街づくり事例をまとめたケース教材を用いながら、レクチャーとクラス討議により議論を深めていきます。

## ◆ 勉強会参加により得られる視点

- ① DX街づくりビジネスの企画に必要なテクノロジーと社会システムの関係を理解するための知識を得ます。右図のソシオテクニカルシステム概念に基づいた知識の深堀と整理を行います。
- ② DX街づくりの実践に欠かせないCX向上と社内の組織変革について実践例（ケース教材）を基に理解を深めます。
- ③ 他社からの参加者との議論を通じて視野を広げ、従来のビジネスの枠を超えた発想力を育成します。
- ④ 街における新しい付加価値創出やビジョンと、DX街づくりのビジネスモデルの構想力を育みます。



## ◆ After Activity ～勉強会後の交流

勉強会終了後も参加者間で交流が続き、新たな協働活動も生まれました。

当社がDXまちづくり勉強会に参加した背景は、現在、当社が進める「新しい成田空港構想」実現時の、空港周辺地域の将来像の検討に活かすことが目的でした。その中で一緒に勉強会に参加した企業様と、勉強会後にまちづくりに関して個別に意見交換をさせていただきました。

特にNTTコミュニケーションズ様とは、事業共創プログラム「OPEN HUB for Smart World」の中で、空港周辺地域の将来像について一緒に検討させていただきました。

（成田国際空港株式会社 経営計画部 戦略企画室 アシスタントマネージャ 河北雄樹さん）

岩手県庁からは職員2名が受講しました。データやテクノロジーを使った暮らし起点の「街づくり」や企業のオープンイノベーションの実例など多くの学びを得ています。

特に異なる業界や職種の方々との交流は職員の財産となったようで、受講者の中のインテック社様（本社・富山県）には岩手に来ていただき、今もスマートシティに関する情報交換が続いています。地域や組織を越えたつながりは、岩手にとっても貴重であり、今後の協働に生かしていきます。

（岩手県 政策企画部 政策企画課 総括課長 加藤真司さん）

## ◆ 勉強会の構成

1回 2.5 時間のセッションを計 5 回開催します。

セッションの内容は、グループ・クラス討議、レクチャー、グループプレゼンなどを予定しています。

Day 1	ケース①②「Fujisawa サステイナブル・スマートタウン」を使ったグループ・クラス討議（終了後に名刺交換会 & 自己紹介会の予定）
Day 2	ケース③「ANA グループが実践するデジタルトランスフォーメーション」を使ったグループ・クラス討議
Day 3	レクチャー：DX の考え方を街づくり戦略に落とし込むためのフレームワーク（前橋市が進めるスマートシティについてのゲストレクチャーを予定）
Day 4	ケース④「会津若松スマートシティ」を使ったグループ・クラス討議（ケース事例の関係者によるミニゲストレクチャーを予定）
Day 5	ラップアップ+グループプレゼンテーション

※時間はいずれも 16:00 ~ 18:30、原則対面での開催を予定しています。

※ケース教材は各 20 ページ。

## ◆ 勉強会の進め方

各セッションで使用するケース教材に事前に目を通して、当日のクラスディスカッションに臨んでいただきます。クラスディスカッションのための質問（2～3点）は、事前または勉強会当日に講師より提示します。3～4名を1グループとして、グループごとにディスカッションと最終プレゼンテーションを行います。最終回（Day5）は、グループプレゼンテーションを予定しています。

## ◆ 参加対象と想定クラス人数

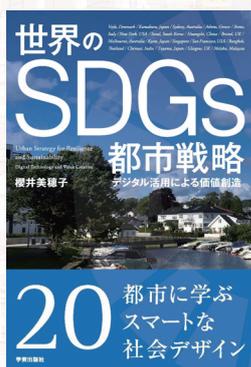
想定年齢層：30 代後半～40 代前半

想定クラス人数：15 名～20 名

※ 最小実施人数：15 名

### <参加対象者のイメージ>

- ▶ スマートシティ、街づくり等の業務に携わっている方、また今後携わる予定のある方
- ▶ 社内で DX を担当されている方、または検討されている方
- ▶ 社内の組織変革、ビジネスモデル変革をお考えの方
- ▶ スマートシティやデジタル社会について深く勉強したい方
- ...



## ◆ 参考書籍

『世界の SDGs 都市戦略：デジタル活用による価値創造』  
（櫻井美穂子著、学芸出版社、2021 年 7 月 25 日発行）

「レジリエンス」をキーワードに世界 20 の都市戦略と実践を参照し、持続可能な街づくりのヒントを読み解きます。

## ◆参加費

- ① 1社から3名（最小の参加人数となります）… 100万円（税抜）
- ② 1社から5名（最大の参加人数となります）… 150万円（税抜）

## ◆講師のご紹介



### 櫻井美穂子 （国際大学 GLOCOM 准教授／レジリエントシティ研究ラボ代表）

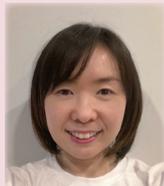
アグデル大学（ノルウェー）情報システム学科准教授を経て2018年より現職。専門は経営情報システム。基礎自治体や地域コミュニティにおけるデジタル活用について、サステナビリティ、レジリエンスの観点から研究を行っている。Hawaii International Conference on System Sciences (2016)、ITU（国際電気通信連合）Kaleidoscope academic conference (2013) にて最優秀論文賞受賞。

実践研究活動として、ヨーロッパ7か国の大学や自治体が参加するEU Horizon2020「Smart Mature Resilience」プロジェクトに参画。2019年からは、自治体や企業との協働による「災害時コミュニケーションを促進するICT利活用に関する首長研究会」を主宰。近著に『世界のSDGs 都市戦略：デジタル活用による価値創造』（2021年、学芸出版社）、『ソシオテクニカル経営：人に優しいDXを目指して』（2022年、日本経済新聞出版）。2023年からデジタル庁シニアエキスパートを兼務。

## ◆過去シーズン参加企業・自治体

NTT コミュニケーションズ(株)、(株)ジンズホールディングス、TIS (株)、成田国際空港(株)、岩手県、ほか

## ◆参加者からのメッセージ



成田国際空港株式会社  
マーケティング統括室  
マネージャー  
金城友紀さん

空港は、航空旅客のお客様、航空会社、周辺地域をはじめ、空港の運営を支える様々なステークホルダーに支えられて日々の運営を行うインフラ施設です。こういった意味で、空港の運営と「街づくり」は親和性のあるものでした。「DX街づくり勉強会」を通じて、組織間の合意形成の在り方や、時代の流れとともに変化するユーザーやコミュニティーのニーズにどのように応えていくかという課題について、具体的な街づくりの事例を通じて議論することができたのは大きな収穫でした。



TIS 株式会社  
デジタル社会サービス企画ユニット  
デジタル社会サービス企画部  
会津サービスクリエーションセンター  
主査  
住吉美樹さん

「DX街づくり・ビジネスデザイン勉強会」では、講師の方が実際に現地でヒアリング、調査したリアルなDXや街づくりの取り組み事例を学べるだけでなく、体系的にアカデミックに学ぶことで理論と体感両面から納得感を得ることが出来ます。研修に参加する異業種の方と意見交換しながら学べる構成になっているため、今まで自社だけでは気付けない発見もあり、事例紹介だけでは学べないスマートシティのリアルを学びたい人におすすめです。

## ◆お申し込み・お問い合わせ

DX街づくり・ビジネスデザイン勉強会事務局（担当：小島）  
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）  
〒106-0032 東京都港区六本木6-15-21 ハークス六本木ビル2F  
Email: resilient@glocom.ac.jp TEL: 03-5411-6675